

利用者支援についての法人研修を おこないました

当日は稲垣亮祐医師をお招きして、3時間に渡り講義や質疑応答が行われました！



【今回の法人研修をおこなうにあたって】

今回、講師をしていただきました稲垣亮祐医師は、医療法人小憩会さわらび診療所の精神科医です。現在摂津交流センターバクの家の子の嘱託医として、月に1度、障害特性やその理解、事例検討等の話をいただいています。

日々の支援をおこなう上での悩みや、どのように支援に取り組むか等を、稲垣医師との話しの中では、毎回多くの気づきがあります。

特に、「『出来なくなる』ことも『成長』である」という話は、今まで、マイナスに捉えていた『出来なくなる』を『成長』というプラスの視点を持つ事で職員の意識に大きな変化をもたらし、支援面でも多角的な視点を持つきっかけとなりました。

このような変化を、職員会議等で報告する中で、職員全体で是非共有できればと思い、稲垣医師へ依頼し、今回の研修をおこなうこととなりました。



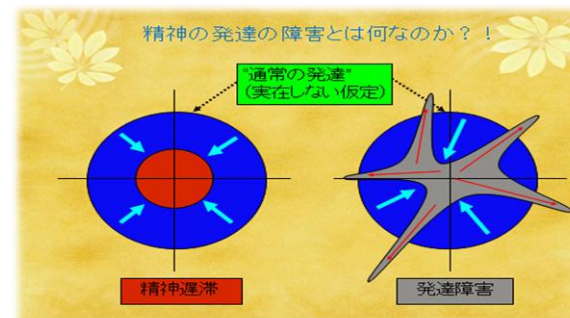
【研修の内容について】

研修は、「精神やこころ」、「障害とは何か」、「知的障害について」の講義と質疑応答がおこなわれました。

一つ目に、こころや精神、脳、神経は同じものではない。「脳」とは、神経細胞がある一定の量以上に集まった部分であると説明がありました。そのために、直腸や胃、心臓の周りにも「脳」があるという事に驚きました。

二つ目に、「障害とは生活障害をこぐる者」との説明がありました。人は生活を送る中で少なからず障害がありますが、現在は福祉制度の支援を必要とする程度の人を障害者とされているとのことでした。支援をおこなう中では、医療面と福祉面からおこなわれる支援は異なり、医療は問題そのものを治すことを目的としますが、福祉は生活を支えるということでした。

三つ目に、「知的障害」についての説明があり、発達障害や精神遅滞とは発達の質ではなく量に特有性があるということでした。量の違いとは、見方により人よりも考え方や感じ方に深さや得意な部分に違いをもっているということが興味深かったです。



【おわりに】

稲垣医師に講師をしていただき、日頃あまり接する機会の少ない精神科医に質問することで、新たな視点や考え方を持ったり、今までとは違う疑問を持つことのできる、実りある時間となりました。

稲垣医師からは、時間内では話せなかったこともあるため、今後引き続き研修を続けていきたいというお話もあり、私たち職員としても、研修を継続していくことで、利用者へのよりよい支援に繋がっていくのではないかと考えています。

今後も、利用者や障害特性の理解を深めていくことのできる研修をおこなっていければと思っています。

参加者からの意見や感想

《法人研修の参加者からアンケートをとりました》

- * 理想の障害者の支えられ方が浸透すれば良いと思います。その努力もしていきたいと考えました。
- * 利用者さんへの関わり方、「関心を持つ」「先手で動く」「やりすぎる」難しそうですが、頑張ります。障害の定義が興味深かったです。
- * 普段の支援の中で距離感(物理的・精神的)を取るように心掛けているのですが、安心感や信頼感を得るためには近づいた方が安心するのではとの思いもあるのですが…。
- * 利用者だけでなく、職員や日々に使える考え方でした。意識している部分もありましたが、考えていく必要があると改めて感じました。

次回の研修の際には、困っている事や悩んでいる事等の具体的な事例について、意見交換がしたいという参加者が多かったです。また、自閉症やてんかん発作、高次機能障害などの特性についても、理解を深めていく場を希望する声も挙がっていました。